

クロスジョブ支援に基づく 高次脳機能障害のある方への就労支援での気づき

- 村上 可奈（特定非営利活動法人クロスジョブ クロスジョブ阿倍野）
- 辻 寛之（特定非営利活動法人クロスジョブ クロスジョブ阿倍野）

1.はじめに

- 高次脳機能障害のある方への就労支援に携わり、各々で就職活動の進み方に違いがあることに気づいた。
- その違いについて、事例比較を行った。
- その結果、クロスジョブ支援のフローチャート（就労準備支援の流れ）にまとめた際に各準備期間の長さや気づき、体験から得られるものの違いにより就職までの時間に差異が見られた
- 上記を踏まえ、個別支援の重要性とともに共通して就職活動に必要な気づきをまとめて報告する。

※論文と照らし合わせながら拝読ください。

2. クロスジョブ支援のフローチャート

クロスジョブ支援「相談と訓練の一体的支援」

経験と気づき



毎日の振り返り
個別支援計画の振り返り、作成
緊急な相談対応

利用開始から就職まで同じ担当が支援



地域の支援ネットワークで

アセスメント&エンパワメント&ジョブマッチング

相談する関係づくり 自分を知り、働き続ける為に必要なことを整理 会社の雇用管理へ

職業準備性、不安や苦手なこと、ストレスの共有・整理

企業のフィードバックから、自信と課題の整理

自己紹介シート作成
適職選定

目標は、働き続けること

3~6カ月

3~6ヶ月

3~6ヶ月

事業所内各訓練
スタッフとの面談

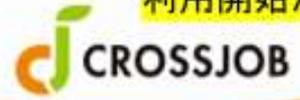
企業見学
体験実習

雇用前実習
採用面接同行

トライアル雇用
ジョブコーチ支援
就業生活支援センターとの連携

新しいチャレンジ！安心して失敗できる場所

利用開始から就職までの平均利用期間15カ月。



3. 各事例の就職活動の流れ

事例：Aさん

1. 基本情報

A氏、30代男性、頭部外傷による後遺症で高次脳機能障がいを呈す
療育手帳B 1 / 身障手帳1種5級 / 精神手帳1級（時折幻聴あり）

◆経緯・経過

- 高校中退後、しばらくして鉄工所で1年間働く。（X-1年～X年）
- X年の交通事故で、外傷性脳損傷。その後遺症として左上下肢麻痺、高次脳機能障害が残る。
- 急性期から地域活動支援センターへ移行し、通所するもX+10年からX+11年にかけて精神状態悪化し自宅で飲酒し希死念慮の表出、ガラスを手で割るなど自暴自棄になる。精神科病院へ入院。X+11年5月から、地域活動支援センターの通所を再開。

3-1(2).フローチャート表

	訓練内容	変化
暫定期間～ 本利用	二 カ 月 施設内（PC入力、軽作業、認知課題、高次脳のグループワーク） 施設外（洗濯業務、スポーツジムのバックヤード作業）	生活リズムが整い、休まず通所されている
実習期	十 一 カ 月 (中 断) 施設内： PC入力、軽作業、認知課題、高次脳のグループワーク 施設外： 洗濯業務、スポーツジムのバックヤード作業 企業実習： PC入力を7時間×5日間実施	精神状態悪化により生活リズム崩れる ↓ 実習で睡眠の大切さを学びやや改善 ↓ 事務の仕事我希望 ↓ 私生活の影響で精神症状悪化により中断
就活期		
就職後		

スタッフ評価では作業系のほうが適している

3-2(1).事例

事例：Bさん

1.基本情報

B氏、50代男性、脳梗塞の後遺症により高次脳機能障がいを呈す

精神手帳 2級、梗塞部位：左レンズ核・尾状核

◆経緯・経過

X年10月に職場（工場）で通常業務が出来なくなり病院受診。そこで脳梗塞と診断となる。退院後すぐに復職し、最初はバイト雇用として残業なしの8時～17時の勤務を行う。3か月かけて通常勤務に戻ったが、部下とのコミュニケーションが上手くとれない。失語の影響で書類作成にも時間がかかる等、継続は難しいと判断し1年ほどして退職。その後、高次脳の専門外来のデイケアを通所。紹介にてクロスジョブを利用。（X+5年6月～11月）

3-2(2).フローチャート表

	訓練内容	変化等
暫定期間～ 本利用	二 カ 月 施設内（PC入力、軽作業、認知課題、高次脳のグループワーク） 施設外（洗濯業務、スポーツジムのバックヤード作業）	<ul style="list-style-type: none"> ・無遅刻無欠席で参加。 ・PCや学習など苦手な作業は頭痛がある。 ・軽作業は問題なし。
実習期	五 カ 月 施設内・外の訓練 企業実習： 体験実習－部品組み立て・解体作業 伝票確認等作業系の実習 （8時間×8日間）	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かしての作業は得意。 ・実習も真面目な姿勢で取り組まれている。
就活期	一 カ 月 事業所での訓練 雇用前実習： 応募した企業で実際に雇用を見据えた実習を実施。 （9時間×9日間）	<ul style="list-style-type: none"> ・事務と作業を含む倉庫内の業務。 ・就職に向けてメモが必要と感じ取り組む。 ・真面目な態度で高評価を受ける。
就職後	六 カ 月 就職する ・就職後定期的に面談や企業訪問しながら支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日体調管理表記載 ・メモを壁にはる

4. フローチャートの比較

暫定期間～
本利用

- **就労準備の前に生活リズムを整えることが大事**
 - ・生活基盤ができていないと次のステップへと進めない

実習期

- **企業実習後のフィードバックでの気づき**
 - ・フィードバックを真摯に捉え、自身の実習を通じて体感したものを整理する
= 自己理解を深める

就活期

- **他者（企業）に障害特性を伝える**
 - ・日々、求人情報にアンテナを張っておくことも大事。
 - ・企業に高次脳機能障害のことを知っていただく。
 - ・自己理解を深め、マッチングを図り企業へ。

就職後

- **雇用後のサポート**
 - ・企業や支援機関との連携を図りながらサポートすることで総括的な支援ができるように環境を整える

5. 事例を通しての学び

- 中途障がいの強みと弱み

○高次脳機能障害 + 発達障害
知的障害等



自己理解
困難



介護・福祉サービスの併用利用も検討

○社会経験が豊富



働くイメージがある為就職の
経験が生かせることもある

- 就労支援に必要だと感じたこと
 - 1.各就労支援期での課題をクリアして次に進む
 - 2.働く意欲の強さ
 - 3.環境因子の影響

6.まとめ

- 高次脳機能障害と診断を受けても、障害部位や成育歴、生活環境の違いにより個別性が高い。

必要な支援も違い、就労準備の進み方も異なるため、個別支援が必要不可欠となる。

その中でも就労に至るまでには、共通して気づきを得る段階を踏んでいることに気づいた。